

第17回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	平成27年7月9日(木) 10:00~12:00
会 場	市役所本庁舎2階 会議室
出席委員	鈴木聡士委員長、天羽 浩委員、谷本雄司委員、武者加苗委員、桂 裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	【企画財政部】中屋直部長、川村裕樹次長 【企画課】加藤文博主査、高嶋真一主査、大西岳主任 【財政課】田中宏明課長、佐藤亮主査

1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、委員会が成立していること」を確認した。

2. 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、武者委員を第17回推進計画委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

3. 議事

【議案1】総合計画中間年度見直しに向けて

前回事務局より説明をした第1章~第4章までの部分で追加意見を伺った後、前回に引き続き、事務局より第5章~第6章までの総合計画の推進結果と、今後の課題として挙げられているものの中から、見直しにおいて課題となるものについて説明

<議案1について第1章~第4章までの追加意見>

○C 委員

北の酒まつりに先日参加したが、会場内で北広島産の地酒がなかった。以前は、北広島産のお米を使った地酒もあったと聞いている。農業の振興に加えて、酒まつりの目玉としての地酒の開発や地元産の農産物のブランド力を高める取組みが必要ではないか。

○事務局

きたひろ農学校シリーズという、地元産の農産物を使った加工品の開発を行っている。今後、北広島産のお米を使って何ができるのか、またその他の農産物のブランド力を高めていくというのは必要な視点である。

○D 委員

徳島県内のある自治体では、20代~30代の若いIT技術者達を移住させるために、町内の住宅にWi-Fiを整備するなど古民家の改修等を推し進め、成功している。北広島市では、工業系の企業誘致で成功を収めているが、今後は工業系の企業だけではなく、ITなどのベンチャー企業の誘致をし、新産業の創出について、もう少し具体的に進めてはどうか。

第17回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○委員長

市が行った市民意識調査においても、定住するためには、働く場所も合わせて確保していく必要があると考えている人が多く、定住と雇用は密接にリンクしていることが分かる。新産業の創出という点も、計画見直しの際に必要な視点である。

○B 委員

工業団地を造成して企業の誘致に成功したのはよいが、過去に誘致した企業が廃業になったところ、撤退をしたところはないのか。また、誘致した企業がどのくらい市内で雇用しているのか。

○事務局

事業所の新增設に対する市内居住者雇用奨励金の実績については確認する。

市内事業所について、長いスパンの中で倒産などによる入れ替わりはあるが、撤退した跡地は別の企業が取得しており、大企業が撤退をして、跡地が空き地になっているところはない。

<議案1について事務局より説明（第5章第1節～第2節まで）>

○D 委員

JR 北広島駅周辺の UR 都市機構の住宅の中で、栄町にある2棟については、今後2年程度で入居の募集を停止し、建替えをする予定があるように聞いているが、何か情報はあるのか。

○事務局

栄町にある UR 都市機構の2棟の住宅については、今後の具体的な動きについては把握していない。

○D 委員

UR 都市機構の住宅の入居状況は把握しているのか。

○事務局

確認する。

○B 委員

道営住宅の規模の縮小に関連して、現状と縮小後のキャパシティについて聞きたい。北海道の計画に基づく縮小だと思われるが、一番立地条件のよい輝美団地をなぜ縮小するのか。

○事務局

現状では28棟745戸で入居率は約65%、今後縮小により7棟236戸を取り壊し、最終的には21棟509戸になる予定。

第17回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○B 委員

236戸が減るとするのは結構な規模だが、今後はどのような方向性で考えているのか。

○事務局

道営住宅の建物自体が、昭和40年代～50年代に建設されており、老朽化に加え、規模が大きすぎることから、北海道は、棟数を減らしたいと考えている。規模が縮小した後の空き地については、北海道と協議しながら利活用などを検討したい。

○D 委員

日本創生会議が、高齢者の地方移住を提唱している。高齢者を総合的に受け入れるためのCCRC構想として、金沢市がモデル団地を造って高齢者の受け入れをしている例もある。若い世代の移住が望ましいが、CCRC日本版として、高齢者の受け入れも検討してはどうか。また、空き家も増えているので、空き家と移住施策をうまく連携させることが大事である。

○事務局

人口減対策・空き家対策は重要と考えているが、新たに住宅地を造成して人を呼び込むのは難しい。空き家対策については、現状の空き家の活用方法のほか、特定空き家については、解体のための融資制度の検討なども必要となってくる。人口減対策としてのファーストマイホーム支援制度については、人を誘導したいエリアに呼び込むために、空き家に住み替えをした場合に補助を上乗せするなどの取組みも必要と考える。

CCRC構想はすでに道内で30程度の自治体が興味を示しており、当別町が北海道医療大学と連携をしながら検討をしているとのこと。但し、首都圏が本当に高齢者を最後まで面倒をみるのか不透明な部分もあり、元気な高齢者を移住させることは大事な視点ではあるが、本市としては、受入れについて検討はしない。

資産をどう売りたいのかといったニーズの掘り起こしと、移住を考えているニーズとをうまく繋げることができないか、総合戦略の中でも考えている。

○A 委員

病院の周りに人口が増える傾向があるが、総合病院に入ることを理由に、札幌へ転出する数を把握しているのか。人口動態調査では、札幌への転出が増えているようだが。

○事務局

施設入所による転出については把握していないが、それらの理由による転出の実態はあると考えている。

○A 委員

高齢者のニーズへ対応する必要はどう考えているのか。

第17回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○事務局

北広島団地内の高齢者を北広島駅周辺に移り住んでもらい、空いた団地内に若者を呼び込んでうまくマッチングするなどの方策が必要である。

○A 委員

北広島団地内の廃校を社会福祉法人が借り受けて運営しているケースがあるが、こういった取組みは今後も継続するのか。また、市にとって何か効果があるのか。

○事務局

高齢者数の推計、介護保険上の推計を行った上で、介護事業計画に基づき、高齢者福祉・介護施設の配置について検討をしている。

学校跡施設に特別養護老人施設などの施設を入れれば、高齢者がどんどん入ってくるかもしれないが、その分市の財政的負担も増える。

単に福祉施設を持ってこればよいということにはならない。

○A 委員

若い女性を増やす、という考えをはっきり打ち出した方がよいのではないか。

○B 委員

戦略的に子育て世代をどう呼び込むか計画の中でうたったほうがよい。これがうまくいけば、北広島団地内の空き家問題も解消する。JR北広島駅に近い北広島団地は、札幌へのアクセスもよく、立地条件が非常によい。例えば、芸術文化ホールの臨時駐車場に100人規模が収容できる保育園をつくってみてはどうか。札幌に通勤する世帯が、子供をその保育園で預けて、そのまま駅から札幌へ行くことができる。ほかにも、道営住宅を壊した跡には保育園をつくれればよいと思う。

○B 委員

おためし移住はコストをかけている割には費用対効果が薄い。戦略的に考えなければならない。

○委員長

高齢者向けの施策ではなく、子育て世代に傾斜した施策を打ち出した方がよい。

○事務局

おためし移住をしたからといって、すぐに移住にはつながらないが、まずはこの街を知ってもらうアイテムとして考えている。

第17回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○B 委員

この街は住みやすい。札幌市民はこの便利さを知らない。この街の住みやすさを売り込まないとダメで、売り込むための戦略があった方がよい。

空いた廃校のグラウンドを活用してスポーツの指導者を誘致、子育て・スポーツの街として売り出すのもよいのではないか。ターゲットを絞って札幌から人を呼び込むことが必要である。

○委員長

いま出た意見は、今後の見直しの参考にしてもらいたい。

○C 委員

市営住宅の空き家率は。

○事務局

100%埋まっているので、空き家率は0%である。

○C 委員

例えば、シングルマザー向けの市営住宅の部屋をつくるなどの施策をやらないと若い世代に来てもらえない。通常であれば埋もれてしまうシングルマザーに焦点を当てることも必要ではないか。老朽化した市営住宅をせっかく改築するのだから、若い世代を呼び込めるような受け皿を用意しておくべき。6章の広報としての売り出しかたにも関係してくる。

○委員長

全体にまたがる意見がたくさん出された。単に定住人口を増やすだけでなく、どう戦略を持っていくのか、重要な視点であると思う。

<議案1について事務局より説明（第5章第3節～第8節まで）>

○C 委員

水道の整備の部分で、北広島市の飲める水の質は、恵庭市と比べてよくないのか。

○事務局

市内に水源がないため、恵庭市の漁川ダムから水を引いているので、恵庭市と同等の水質である。

○A 委員

北広島市の水道料金は近隣の市町村と比べて高いと思うが、水道料金が低いということは課題にならないのか。

第 17 回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○事務局

漁川ダムが水源となっており、近隣市町村で構成した一部事務組合で管理運営を行い、そこから供給を受けているが、ダムの建設費用などを構成団体に負担している。夕張シューパローダムの費用についての支払も始まり、札幌市と比べても水道料金は高く、道内全体でみてもトップ 10 に入るくらいの高さ。また、夕張シューパローダムの費用については、構成団体の人口に応じて負担する仕組みになっていることもあり、水道料金を下げる方向にはない状況。

○委員長

交通の充実の課題のところ、路線バスについては、維持が難しいからサービス水準を下げる方向に向いているのか、これから充実させていく方向に向いているのか、基本的なスタンスを教えて欲しい。

○事務局

北広島団地内の路線バスについては、利用者が減少しており、減便を食い止めるために平成 24 年度から補助金 250 万円、平成 27 年度は補助金 400 万円を出して減便を食い止めている状況。一方で、今後少子高齢化が進み、通勤客も減り、利用者が減少する中で、今の路線を維持することが大事なのかも含めて、路線の在り方を考えることが必要である。実態を把握するために、地域に入り込んで聞くと、まだあまり困っていないとの声が聞かれるが、いつか車が使えなくなったときに困るという声も聞かれる。

○委員長

市民意識調査で、現状の満足度の中では公共交通に関心がないという結果が出ているが、一方で、今後住み続けていくことを考えると公共交通は大事である。バス路線が単体で赤字だから減便ではなく、移動手段をどう確保していくのか、住み続けられるまちをどうつくっていくのかという視点を持って考えてもらいたい。

○B 委員

コミュニティバスの検討はしないのか。民間のバスへの補助金はこれから増える一方。それならいっそのことコミュニティバスに切り替えて、利便性を高めることを考える余地があるのではないかと。

○事務局

コミュニティバスの導入の検討はしていない。他市の事例の調査は行っている。利便性の問題については、乗りたいときに乗れるのが望ましいが、そのレベルでいくと 30 分待てない、1 時間待てないというニーズに応えることになるが、現実的ではない。

第17回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○委員長

コミュニティバスは、年間で億単位かかると言われている。各自治体で状況は異なる。買い物と通院が2大要因となっているが、今後どのような形が望ましいのか、検討が必要である。

○A 委員

乗合タクシーの利用の部分で、対象者はバス路線がないところの高齢者なのか。

○事務局

事業を開始した当初は、バス路線がない地域の65歳以上の高齢者で一人で乗降が可能なかったが対象であったが、平成25年度は60歳まで引き下げた。アンケート結果でも、自家用車での移動や家族に送ってもらうケースが多かった。

○A 委員

乗合とは、一人で乗ってはいけないということか。

○事務局

交通空白地域でうまく予約をからめてAさん、Bさん、Cさんを乗せて目的の場所まで向かうというイメージだが、実質乗合はなかった。そもそも車での生活を前提に地域に住んでいる人が多かった。

○委員長

おそらく、この状態が普通なのだと思う。ただ、事業を廃止した数年後、75歳になって免許を返納したあたりで需要が生まれてくると思うので、そのあたりをどう考えるのかなかなか難しいところである。

○B 委員

海外からの観光客のニーズとして、Wi-Fi環境の整備が求められているとあるが、北広島市内でそういったニーズは結構あるのか。もし実態としてニーズがないなら、整備しても意味はないので、別の有効なターゲットを絞ってやるべきではないか。

○事務局

海外の観光客のニーズのほかに、市民の利便性も含めた形でWi-Fi環境の整備を検討していくこととなる。すでに、市内では、図書館、広葉交流センター、エコミュージアムセンター、中央公民館の4施設においてWi-Fi環境を整備しているが、今後は必要性も含めて整備拡大について検討していきたい。

海外の観光客のニーズに対応するためだけにWi-Fi環境の整備をしているわけではないので、表現も含めて少し整理をしたい。

○委員長

北広島市内で海外の観光客のニーズとしてどのようなものがあるのか、きちんと整理をすることが必要。台湾の観光客で自転車利用のニーズが結構あるそうなので、そういったニーズをどう戦略的に捉えて観光に活かしていくのか、整理をしてもらいたい。

第17回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○D 委員

Wi-Fi の整備自体は、市で行うものなのか。

○事務局

キャリアが民間店舗などに提供することが多いが、市の公共施設については、市のほうで整備している。

○D 委員

Wi-Fi の設置は先駆的にやるのが大事。例えば、エルフィンロードに Wi-Fi を設置して、先進的なサイクリングロードにするのはどうか。

○B 委員

ニーズに応えるところに Wi-Fi を設置すべきと考える。何のためにやるのかを考えてほしい。例えば、クラッセに観光客を泊めて、春から秋はサイクリングをしてもらい、冬には歩くスキーを体験させるなど、つなげて考えてもらいたい。

○委員長

出された意見をどう総合的に絡めて戦略を練っていくのか、事務局のほうで考えてもらいたい。

<議案1 について事務局より説明（第6章第1節～第6節まで）>

○C 委員

シティセールス動画の PR 効果はあるが、それを施策にどう落とし込んでいるのか。例えば、1873 米革命という動画があるのであれば、米を利用したブースをイベントで出せばよい。単にユーチューブでの再生回数を増やすだけではだめで、実際に施策に落とし込んでいかなければならない。

それから、財政面のことについて、総合計画もそうだが、その他の計画も公表する際に、各事業に必要な予算や決算のデータを表示した方が、事業の必要性を判断しやすい。

○事務局

総合計画の点検結果報告書は、課題を主に載せたもの。別にある政策評価では、事業費を載せている。今後、公表する各種計画等に金額を載せるかどうか検討したい。

○B 委員

シティセールスで何を売り込むのか、何がよくて何を知らせたいのか。自然はあるが、歴史がない、産業がない、そういった場合にどうストーリー性を持たせるかが難しい。例えば、まいぴーは、赤毛米をモチーフにしているかわいいが、ブレイクしないのは何故か。ブレイクする要素はあると思うのだが、ブレイクしたら何を売り出すか、そこまで考えてほしい。

第17回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○事務局

シティセールスについては、平成22年度から経済部で進めたもので、平成26年度からは、都市型観光としてのシティプロモーションを経済部、定住等を見据えたシティセールスを企画課で対応している。シティセールスの趣旨は、まずは知らない人に北広島市を知ってもらう、ということ。まいぴーも含め、今後の進め方については、総合的戦略的に考えたい。

○B委員

トリムコースやたこ公園、緑陽公園などをビデオにとって流したほうがよいのではないかと。北広島市の方がもっと現状をみて、よいものを発信していくスタイルのほうがよい。

○事務局

子ども医療などの補助は他市にはない手厚さであり、また団地内のトリムコースなどは身近なすばらしい資源の1つである。先日、市主催のランニング婚カツを実施したが、トリムコースを実際に走ってもらって市の魅力を知ってもらうことができたと考える。

○D委員

おためし移住については、若い世代は実際には仕事をして生計を立てているので、1ヶ月間という期間での参加は難しい。やはり、若い世代は住まいと仕事がセットになっていないと移住が難しい。実際におためし移住を利用しているのは、リタイアした世代ということなるが、その世代が魅力発信をしているという点では評価できるし、リタイアした世代が自分たちの子どもや孫を呼んでくるという効果もある。その流れができると、市の魅力発信として広がりが出てくる。短期的な効果は難しいかもしれないが、継続することによって、5年後、10年後に定住につながれば、それはシティセールスの効果があったと言えるのではないかと。種をいろいろまいておくことも、中長期的には大切なこと。

○B委員

若い世代は札幌から来てもらえばよい。要は若い世代の奪い合いということ。おためし移住については、沖縄の人に冬に来てもらうなど、もう少しターゲットを絞ったほうがよいのではないかと。

○D委員

首都圏の人間を札幌以外の北広島市に移住させる、視野を広げるツールとして、おためし移住やシティセールスを効果的に組み合わせればよい。

○委員長

色々な意見が出されたので、これをどう連携させて中長期的にどう反映させていくかがポイントとなる。事務局には、反映作業をお願いしたい。

第17回北広島市総合計画推進委員会 会議録

4. その他（次回開催日程についてなど）

今後、第16回・第17回の委員会で出された意見等を踏まえた見直し作業を行い、企画財政部としての素案を作成、その後各部局との調整を行うが、作業の状況をみながら、次回の委員会の日程を調整。（9月上旬）

5. 閉会

会議録署名委員
